



前方部西トレンチ

前方部西側は残念ながら大きく削られており、墳丘の裾やテラスなどは確認できませんでした。それでも調査区の東半では、古墳の盛土が検出されました。古墳の築成方法を知るよい資料となります。

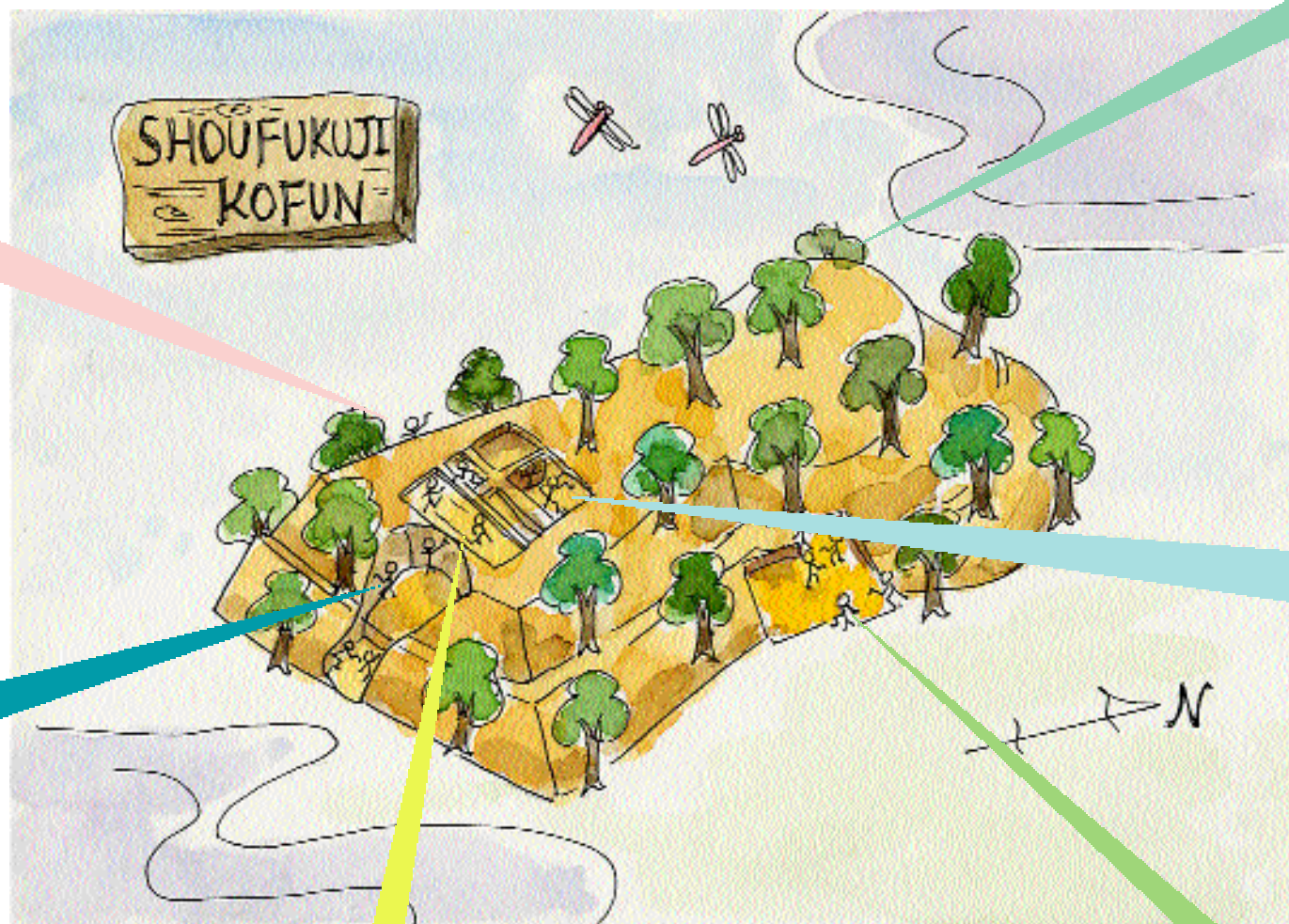
前方部南トレンチ

1933年の盗掘で、コの字状に掘削された場所を調査しました。古墳の盛り土の様子が見え、古墳時代後期の教科書のような土の盛り方です。墳丘の壊され方が激しくて、古墳の南端を見つけることはできませんでしたが、トレンチの南端付近に古墳の端があることはまちがいないでしょう。昨年の調査で、古墳の北端を見つけています。以上のことから全長40メートルの古墳であると推測できます。



前方部墳頂南棺調査区

1971年に川西市教育委員会で調査した埋葬施設を、今回再調査したものです。1971年には金の耳飾り・玉をつづったネックレス、鉄鏃・刀が出土しています。今回の調査では、棺を納めるために掘った穴や、棺の細かな構造が新たにわかっています。なお、1971年に出土した副葬品は、川西市文化財資料館に展示されています。



後円部の横穴式石室

石室の調査は今回しておりません。明治に発見され、鏡・馬具・刀・土器などの副葬品が出土しました。この古墳のもっとも中心的な埋葬です。この古墳には、石室以外に前方部に2つの棺があったことが今回の調査でも確認されました。後円部と前方部に分けて埋葬された人たちはどのような関係にあったのでしょうか？考古学界でもいろんな意見があります。みなさんも考えてみてください。

前方部墳頂調査区（北棺）

1933年に盗掘が行われ、ここから鏡と刀片が出土しました。このことから前方部に埋葬施設があるといわれていました。その埋葬施設を確認するために調査を行いましたが、盗掘坑で完全に破壊されたようで、埋葬施設は残っていませんでした。それでも盗掘坑に古墳時代のものと思われる鉄製品が出土したので、やはりここに埋葬施設（北棺）があったと考えられます。

東くびれ部トレンチ

前方後円墳の円丘と方丘がつながる部分をくびれ部といいます。今回の調査では、くびれ部と考えられる斜面の変化を確認しました。その斜面の変化を参考に古墳の細かな形の復元をしました。埴輪と須恵器がこの調査区からたくさん出土しました。前方部にも埴輪が並んでいたことがここからわかります。

なにがわかったの？ ～ 勝福寺古墳 ～